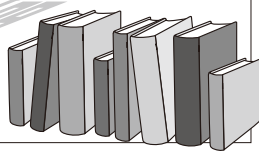


本棚



改訂版 虎の巻 低線量放射線と健康影響 先生、放射線を浴びても大丈夫？と聞かれたら

放射線医学総合研究所 編集
土居雅広，神田玲子，米原英典，
吉永信治，島田義也 編集責任



東京電力(株)福島第一
原子力発電所事故以来、
一般の方から放射線の健
康影響について問われる
機会が急増した。私は放
射線に関する研究を行っ
ているが、生物学は専門
ではないため、放射線取
扱主任者試験レベルの知
識しか持ち合わせておら

ず、苦勞しながら回答してきた。例えば、「低線量
ってどれくらいの線量のことをいうの？」と質問を
受けた際に、明確に即答できる人は少ないのでは
ないだろうか。本書の初版の発行は2007年であるが、
福島第一原発事故を受けて放射線影響・防護に関
する正確な情報発信のために2012年11月に改訂さ
れたものである。主に医師等の医療関係者向けに書
かれたものであるが、それ以外の方でも参考としたい
1冊である。

序章では、“変貌しつつある放射線防護の考え方”
として、ICRPが勧告する放射線防護の考え方の変
遷について整理されており、一般の人からの質問に
答えるために放射線の影響を正しく理解する必要が
あると説き、導入としている。

第1章では、“一夜漬け『放射線の健康影響』”と
して、放射線に関する基礎的な情報、特に人体への
影響について整理されている。

第2章では、第1章の内容を受けて“規制者も医
師・保健師も猛勉強『低線量放射線の健康影響』”
として、①放射線規制はどういう科学的根拠に裏打
ちされているのか、②低線量放射線の健康影響につ
いてどこまで分かっているか、③研究者によってデ
ータの解釈や判断が異なるのはどの点か、それはな
ぜなのか、について述べられている。項目ごとに1
ページのまとめがあり、要点のみを読むこともでき
る。

第3章には、“虎の巻『低線量放射線の健康影響
に関する一問一答』”として、放射線に関する想定
質問29題とその回答例がまとめられている。回答
には冒頭に明確かつ簡潔に答えが述べられており、
次いでその詳細な解説が述べられている。

終章の“化学物質のリスクコミュニケーションに
学ぶ”では、リスクコミュニケーションが、かつて
原子力平和利用の推進のため用いられてきた科学的
正確さよりも安心感を与えることを優先したパブリ
ックアクセプタンスなる原子力分野での業界用語と
は違い、絶対安全なものではなく、リスクを基準とす
る安全の評価によって日本でも社会的合意を得るよ
うになった変遷について述べられている。本書の表
題にもある「先生、放射線を浴びても大丈夫？」と
いう言葉は、リスクコミュニケーションの始まりを
意味する言葉である。リスクコミュニケーションは、
科学的に正確な情報の双方向伝達とともに信頼
関係の構築を目的とするため、なかなか難しいもの
である。特に、放射線分野においてはそのHow to
が発展途上の段階であるが、化学物質リスクでは成
功要因が明らかにされてきているため、それに学ぶ
べきだとしている。

巻末には、参考文献、用語解説の他に、別表とし
て、“急性・慢性放射線被ばく線量”と“放射線の
規制値と生活環境放射線レベル”が線量や規制値の
数値順に並べられ、被ばく形態・項目・影響、更
には根拠となる参考文献がまとめられており役立つ。

(松垣正吾 東京大学アイソトープ総合センター)

(ISBN978-4-86003-428-3, A5判208頁, 本体価格
2,300円, 医療科学社, ☎03-3818-9821, 2012年)